

大田市新庁舎整備基本設計書（素案）パブリックコメント 意見回答一覧

No.	ページ・該当箇所	意見	回答
1	2p I.設計の基本方針 2.計画概要 (2)敷地の条件 22p III.事業費・事業工程関係 3.概算事業費、用地取得費	敷地面積約6,234㎡とR6.3月時の約6,300㎡と大差ない。一方で用地取得費は24,000千円と40%減となっている。所要額の精査とは何を意味するのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎敷地には、土地区画整理により、市の土地と市の土地開発基金の土地があります。 ・用地取得費は、市が土地開発基金から土地を取得する費用で、令和6（2024）年3月の基本計画時点では、概算額で算出しました。 ・令和7（2025）年度に仮換地が完了し、敷地のうち基金の土地面積が定まったため、金額が確定できたものです。 ・当該説明部分は「取得面積確定による減」に改めます。
2	6p II.建築計画 2.平面計画（3）1階の市民利用イメージ	空調は、一室だけの予約のために全館空調稼働といった非効率が生じないか。コスト回収と利用促進のバランスをとった適正な利用料、用途パターンの設定が重要。全面ガラス張りだけでなく壁、ガラスと交互に半々でも開放感があるのでは。机をぶつけるなどして破損した場合のリスクも想定。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室などの常用しない部屋は、個別空調とします。 ・利用料については、「大田市使用料および手数料の見直しに関する基本方針」を基に市の公共施設で用いる「原価算定方式」を原則として、今後検討します。 ・壁面の仕様については、ご指摘の破損リスクのほか、会議の透明性とセキュリティなどの要素も検討し、選定します。
3	8p II.建築計画 2.平面計画（5）窓口の利用イメージ	P8の（5）②で窓口業務のDX化とありますが、市役所まで行かなくても良いなどマイナンバーで本人確認し自宅他で電子申請、手数料支払いを完了しまちづくりセンターでオンライン発行で受け取れるなど進めて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口業務のDX化として、令和8（2026）年度に、書かない窓口等の導入や住民票の写し等のコンビニ交付といった取組を進めてまいります。 ・よりよいサービスを提供できるよう取組の改善を行いながら、新庁舎の運用にも反映してまいります。
4	11p II.建築計画 2.平面計画（8）立体駐車場・付属棟平面計画	新庁舎が「持続可能なまちをめざす拠点」であるならば、自分たちの子や孫が納税者となる40年先を見通した設計であるべきだと思います。EV車が大半を占める将来を考えれば、立体駐車場の各階にチャージスポットの設置は必須だと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では、太陽光発電の整備コスト回収が難しく、EVの普及にも不透明な部分もあるため、チャージスポット設置はしない予定ですが、設置工事自体は可能な構造とします。
5	11p II.建築計画 2.平面計画（8）立体駐車場・付属棟平面計画	<付属棟> 雨にぬれずに行けるほうがいいと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・1階部分は2階の床面が屋根になり、2階部分は新庁舎から軒先に屋根をかけますので、各階ともぬれずに移動可能です。
6	14p II.建築計画 4.外装計画	仮設工事やゴンドラなしでメンテナンスや雨水排水関係の清掃、点検などが行える設計が良い。鉄骨部分の防錆、防結露をしっかりし建築全体の寿命に影響がないように。外部に木のルーバーのようなものが見えますが、雨ざらしで退色や腐食が心配。意匠的な目的なのであれば採光調節はほかの施工方法に。意匠よりメンテナンスのいらなさ、楽さを優先。	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃、点検などのメンテナンスがしやすい設計とします。 ・鉄骨の防錆、防結露についても配慮します。 ・ルーバーについては、ご指摘の褪色、腐食リスクを踏まえ、メンテナンスしやすい用材を選定します。なお、ZEB認証にあたり省エネ性能を満たすため、ルーバー自体は必要と考えています。

7	14p Ⅱ. 建築計画 4. 外装計画 5. 内装計画	市庁舎は市民みんなの財産、しかもJR大田市駅前に作る訳ですのでまさに大田市の顔、玄関口です。市民のみなさんに愛され、市民の憩いの場になるような、また、観光で来た人を、石見銀山の歴史や三瓶山の自然にいきなない、こころ躍らせるような、そして市庁舎自体が訪ねる価値のある、次世代へのレガシーになるような、そんな市役所が出来ますよう、心より願っております。	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎の外観や間取りは、これまで基本設計中間報告段階での市民説明会を始めとして、さまざまな機会でもいただいたご意見を踏まえ、まとめています。 ・庁舎の形状や使用材は、機能性とコスト面のバランスを考慮し、施工やメンテナンスがしやすく省エネ性に優れ、デザインが華美なものにならないようにします。 ・建物の構造材は鉄骨造を採用しています。鉄筋コンクリート造と地場産材による木造、鉄骨造を比較し、コスト面に加え柱本数が少なく柔軟な変化に対応しやすいなどメリットが多いからです。 ・窓口については、バリアフリーを含めた機能性を重視し、市民が「快適」「スムーズ」と感じられる窓口であるとともに、柔軟なレイアウトが可能な窓口とします。 ・実施設計では、より大田らしさを感じられる新庁舎となるよう、例えば内外装のアクセントに地域産材を用いたり、各所のサインに石見銀山や三瓶山などのモチーフを取り入れるといったことを検討します。
8	14p Ⅱ. 建築計画 4. 外装計画 5. 内装計画	素人なので、財政面や建設にかかる細かな基準、許可事項はわかりませんが、提示された現行計画のデザイン（外観）は魅力に欠けると思います。今のセンスの都会の商業ビル、銀行のフロアのようなデザインが、今後数十年間、大田市に相応しく、市民が長く愛するものになるかについて疑問に感じます。このことは市民誰でもがパッとわかって意見を言いやすいことですので、せめて庁舎外観や市民がよく使うメインフロアについて、複数案提示して、市民の意向を聞くことをして頂くとよいと思います。設計会社やコンサルタント会社はいくらでも提案してくれると思いますが…？	
9	14p Ⅱ. 建築計画 4. 外装計画 5. 内装計画	デザイン、都会の商業ビルの、銀行窓口のようなカウンターがいいのでしょうか？ 私は、石見銀山歴史の町、三瓶山や石東海岸の自然の魅力にあふれた町の玄関口に、計画書にあるような都会の商業ビルのような外観の、中に入れば都会のオフィスのような市役所が本当にふさわしいのだろうか悲しくなりました。	
10	14p Ⅱ. 建築計画 4. 外装計画 5. 内装計画	今の計画は4階建ての鉄筋コンクリートのビルディングですが、「せっかく今、新しい市役所を作るのにこれはどうなのだろう」とかなりの違和感を感じて調べてみました。 木造建築の4階建てでも庁舎建設の耐震基準をクリアできるし、CLT工法やRCとのハイブリッドでかなりの大きさの建造物ができそうですね。エコ系の補助金もあるみたいでしたし、時代として国は木造を推進しているのではないですか？ すてきな先進事例もたくさんありました。アイデア次第で頑丈でエコで大田市らしい庁舎が必ず出来ます。工期の短縮で総工費削減の可能性もかなりあるようです。 地場産業である木材をふんだんに使って、石見銀山歴史の町、三瓶山や石東海岸の自然の町に相応しい趣のある庁舎ができるのではないのでしょうか？ 将来的な拡大縮小にも柔軟に対応できるし、地元の木材加工会社や建設会社・工務店が長く関わるのも良いことだと思います。	
11	14p Ⅱ. 建築計画 4. 外装計画 5. 内装計画	JR大田市駅前に新庁舎が建つのですから、今風の都会的なオフィスビルでは無くて、大田らしい、田舎らしい、落ち着いた建物、周辺整備が良いと思います。地場産業の木材などの地場産品をふんだんに使い、日本中があっと驚くような市役所にして頂きたいです。それなら、駅前の大田市役所が、石見銀山や三瓶山観光の入り口になりますし、地場産業PRの生きたショールームにもなります。 松江や広島からのついででは無くて、大田市が山陰観光の起点になるような魅力ある駅前づくりをお願いします。石見銀山、三瓶山、石東海岸、宿泊、農林業、水産業の発展、グルメなど々まだ活かしきれてないポテンシャルが出番を待っています。 今は85億円、105億円の議論ですが、大田市や周辺地域がより発展するための投資なら、そして産業も経済も活性化させるという強い意気込みで臨めば、例え150億円かかっても意義のある投資になるのではないのでしょうか？ 子供たちが地元の魅力を感じ将来への希望を持って暮らせるための起爆剤となる市庁舎ならそれが150億円かかっても良いと思います。それで稼げばよいのですから。 最初「しろがねの葉」を読んだ時にはこれの映画化は難しいだろうなと思っていましたが、日本には「ばけげ」の高石あかりさんはじめ若くて素晴らしい俳優がたくさんいることを知り、映画化は夢では無い、誘致すべきだと思います。 その完成披露記者会見に相応しい、石見銀山をモチーフにした素敵なエントランスホール、ネガイマス！	
12	14p Ⅱ. 建築計画 4. 外装計画 5. 内装計画	日本には古来から大型の神社仏閣などの木造建造物が有り多くの震災にも耐えて来ました。大阪万博では隈研吾さんの大屋根リングが世界を驚かせました。もしも、島根県産、地元産の木材で、木造の耐震構造に優れた市役所庁舎ができれば、どんなにすばらしいことでしょうか。 また、大田市から雲南にかけては（恐らくは三瓶山の火山由来の）良質な御影石の産地で、地下にはたくさんの石材が埋まっていると聞きます。石州瓦や温泉津の焼き物など特別な技術も大切に継承されています。それらの素材を使って、鉄筋コンクリートの都会的なオフィスではない、大田市の歴史文化と自然に寄り添った、魅力的な建造物が作れないのでしょうか？ 木材や石材の調達、市民県民が持て余している山林や庭石からの寄付を募れば工夫次第で相当量の資材が集まるのでは無いのでしょうか？ 計画書にも地場産品の利用は書いてありますが、もっとふんだんに大胆に使う方法は無いのでしょうか？ぜひご検討ください。	

13	16p Ⅱ.建築計画 7.ユニバーサルデザイン計画(4)トイレの考え方	市民と共用となる女子トイレ数は適切ですか。	・空調調・衛生工学会の算定基準により、想定する来庁者数に応じた数を、各階に設置します。 ・女子トイレは、待ち時間が40秒を超える可能性が1%未満となるよう計画します。
14	18p Ⅱ.建築計画 8.サイン計画(3)外構サイン	栄町高禅寺線からの車利用の来庁者用の外構サインを設置するべき。場所は市道柳井大正西線と市道駅東駐輪場横線の交差点付近(図面で赤の④数字近辺)。	・主要道路からの駐車場への案内表示は、必要なものと考えています。 ・敷地周辺のサイン設置箇所は、実施設計の中で道路管理者などと協議し、決定します。
15	19p Ⅱ.建築計画 10.ライフサイクルコスト(LCC)の低減	P19の③メンテナンスコスト削減ですが、「現庁舎のメンテナンス実施不備を反省し以下を実施する」と一文が欲しいです。	・現庁舎のメンテナンス不足が建て替えを要する一因となったことは事実であり、反省が必要と考えています。 ・予防保全の考え方に基づき定期的なメンテナンスを行うことが、反省を踏まえた必要な改善と考え、「(1)建築費、維持管理費、改修費それぞれの検討によるLCCの削減」内の説明文の末尾に、「・予防保全の考え方が建物の長寿命化に重要であることを踏まえ、定期的な大規模改修を実施します。」との一文を追加します。
16	20p Ⅱ.建築計画 11.防災・BCP計画	災害時における業務継続のための庁舎ライフライン確保について、一部の空調の熱源をLPガスにするとのことですが、平常時の空調運転も一部ガスを採用するならば、ガスと電気の熱源割合と各々のランニングコスト試算を提示して欲しいです。環境とエネルギーへの考え方はまちづくりの指針となるものですから、この機会に大田市の基本方針をお聞かせください。かまどベンチを駅に近い北広場に設置するのは良いプランだと思います。	・ガス空調については、基本設計書(素案)時点まで、本会議場での採用を検討していましたが、本会議場の運用方法の変更(多目的利用化)を踏まえ、最終的に電気空調に統一することとしました。
17	21p Ⅲ.事業費・事業工程関係 1.事業費削減の取り組み	新庁舎整備基本設計書市民説明会にて疑問点の解消ができて良かったです。ありがとうございます。P2の(5)建物規模の考え方①新庁舎で「将来の人口規模、職員数を」とありますが、「人口減でも最低限必要な市役所機能を行う職員数」とP21の入居職員数削減の71名は図書館他に分散配置と説明がある方が分かり易いと思います。	・施設および人数は検討段階であり、実際の移転までに変更となる可能性があるため、各施設の具体的な人数は表記しませんが、表中「削減内容」について「入居職員数」とした部分を「中央図書館、衛生処理場、旧松江国土事務所大田分室といった既存施設に分散配置し、新庁舎で勤務する職員数を削減」と改めます。
18	22p Ⅲ.事業費・事業工程関係 3.概算事業費	事業費は800,000千円から458,000千円と、42.75%の減。駐車台数は160台から124台に減ったのみ(22.5%減)。理由として、駐車台数減による面積減と謳ってあるが納得し難い。他の理由も挙げるべき。	・国が認定した規格の駐車場とすることで、防耐火設備の省略や消防設備の簡素化、工期短縮といった、コスト削減ができる見通しです。 ・また、面積減により基礎工事の額が下がります。 ・当該部分に「国の認定規格としたことでの設備簡素化による減」と追加します。
19	22p Ⅲ.事業費・事業工程関係 3.概算事業費	456,750千円から299,480千円と33.43%減となっているが、既存備品使用による減と面積減に伴う減の比率は。	・基本計画では、面積による概算で積算しています。 ・基本設計書(素案)では、什器類を平面図にあてはめ、棚類など既存物品の使用想定箇所は除いて、積算しています。 ・このように異なる積算方法であるため、面積減や既存物品使用による減額幅や比率は、算出していません。
20	22p Ⅲ.事業費・事業工程関係 3.概算事業費	令和11年までの使用による破損、経年劣化は織り込んであるのか。	・既存物品の使用は、主に耐用年数が高いもの(棚類など)や品質が良く小修繕で再利用できるもの(議会諸室や特別職執務室の建具など)を想定しています。 ・したがって、一般的に破損しやすく耐用年数が短いもの(椅子など)は対象としていません。 ・個々の状態をみて、使用に耐えうる什器類を使用することは必要と考えます。
21	23p Ⅲ.事業費・事業工程関係 4.財源の見通し	脱炭素化推進事業債に対する地方交付税措置7.5億円の根拠を示してもらいたい。15.1億円×充当率90%×措置率50%=6.795億円となるのでは。	・脱炭素債の対象となる事業費(起債対象額)は約16.7億円で、15.1億円は地方債を借りられる額(起債充当額、起債対象額の90%)です。 ・そのため、交付税措置額の計算は、起債対象額16.7億円×充当率90%×交付税措置率50%=7.5億円となります。
22	23p Ⅲ.事業費・事業工程関係 4.財源の見通し	説明会で、大田市の職員の給与を引き下げて、返済に充てるとの説明が有りましたが、具体的には何円引き下げて、何億円捻出されるのでしょうか。今後この措置の経過は、金額を示して市民に説明されるのでしょうか。そうでなくては、市民に対するアピールだけと受け取られかねません。往々にしてよくあるパターンではないかと感ぐざるをえません。	・令和8年度以降に実施する新庁舎整備の設計や工事に充てる財源の一部として、令和6年度から、市の貯金のひとつである「公共施設総合管理基金」への積み立てを行っています。 ・職員の給与カットは、この貯金の積み立ての主な原資となっているものであり、令和7年度から令和11年度までの間、部長級で7%、課長級で6%、課長補佐級で4%、係長級で3%、主任級で2%を減額するものです。副主任級、主事級の減額はありません。 ・同時に、市長は20%、副市長15%、教育長10%の減額を行っています。 ・これらを主な原資として、当初予算時に1億円を積み立てる予算措置を行い、5年間で5億円を積み立てる予定です。 ・新庁舎整備の事業費や財源、基金の積立状況などにつきましては、今後も予算や決算の公表段階でお示ししてまいります。
23	その他 事業全般	池田では、小・中学校が木造から鉄筋コンクリートに立て替えられ、現在は廃校になり、建物だけ残って放置されています。大田市の人口は減少の一途を辿っており、新築して、十数年後には、大田市そのものが消滅し、市庁舎だけが残り放置されかねないのではと杞憂します。今後、大田市としては、市の人口動態はどのように変遷すると予測されていますか。この度は改修して十数年後の社会状況によりその先の、方策を検討するべきではないでしょうか。	・基本設計書(素案)における人口推計では、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計(令和5年度公表)を用いています。 ・この推計では、新庁舎供用開始の令和12(2030)年は27,977人、さらに20年後の令和32(2050)年は19,642人(県内では、現在の江津市の人口程度)となります。 ・面積削減の取り組みの結果として、新庁舎は令和32(2050)年の人口約20,000人の規模にも見合ったサイズとなっており、将来的にも必要な公共施設として整備する必要があると判断しています。
24	その他 事業全般	この度の、市庁舎建設については、設計、議会での審議と決議、入札など、どこまで進んでいるのでしょうか。市庁舎の建設予定地と思われる、大田市駅の前辺りは相当、土木工事が進んでいるようですが、見ていると、既に市庁舎の建設は決定して、着工されているように見受けられますが、どうでしょうか。見切り発車ではないとは思いますが、実態はどうなのでしょう。	・新庁舎整備については、令和5(2023)年度の基本構想策定の以前から、都度議会や市民のみなさまと協議を重ねて進めてきており、見切り発車というようなことはございません。 ・これまでの主な経過は、こちらのリンク【主な経過へリンク】にまとめていますので、ぜひご参考ください。 ・現在の駅前の土木工事は、新庁舎以外も含めた土地区画整理事業として行っているものです。 ・新庁舎整備については、令和8年3月議会において令和8年度当初予算として実施設計予算が可決されたほか、「大田市役所の位置を定める条例」の改正が可決され、令和13(2031)年度までに大田市駅前に市役所の位置を変更することを決定しました。 ・したがって、市としては、基本設計書(素案)でお示したとおり、令和12(2030)年度中の供用開始を前提に、実施設計および工事を進めてまいります。
25	その他 事業全般	3/18の新庁舎整備基本設計説明会に参加しました。昨年の市長選挙で市を二分するような接戦となったことに非常に驚き、改めて新庁舎の詳細について知りたいと思い参加しました。率直な感想としては建物について、財政についてなど説明が明瞭で納得でき、大変有意義でした。市役所は人生のあらゆる場面でお世話になる場所だと思います。個人的にですが、本日参加して建て替えるべきとの答えに至りました。市民に愛され、大切にされていくためにも石見や大田市らしさ(例えば石見焼タイルやしろがねの葉のようなモチーフなど)を前面に出して、訪れる人がその土地らしさを感じられる建物を作っていっていただきたいです。最後になりましたが、丁寧な説明会を市民向けに開いてくださり大変感謝しています。関係者の方は大変なお仕事が続くと思いますが、市民としても極力参加し、明るい未来の描ける大田市をつくっていただけるよう協力させていただきます。	・ご指摘のとおり、市民の愛着や「大田市らしさ」を感じられる庁舎となりますよう、地場産材の使用方法も含め、引き続き実施設計の中で検討してまいります。 ・説明会によりご理解を深めていただけたこと、大変ありがたく存じます。
26	その他 事業全般	職員駐車場はどこを想定しているのか。新規整備はしないのか。	・職員駐車場は、現庁舎では職員共済会が民間の土地を借り上げているほか、市の土地を使用することで対応しています。 ・新庁舎周辺にまとまった土地がないため、近隣の職員駐車場の確保は困難な状況です。
27	その他 事業全般	職員駐車場は毎日働く職員さんが利用するので、できれば雨にぬれずに行けるところか近くにあった方がいい。	・したがって、現行の「職員共済会駐車場」および「旧警察署跡地駐車場」などの駐車場を利用するか、または各自で近隣の民間駐車場を借りる、もしくは徒歩や自転車、自動二輪車、公共交通での通勤に変えることとなります。
28	その他 事業全般	職員の方の通勤用駐車場、昼ご飯時の食事場所はどこにありますか。	・現庁舎のような食堂は設けず、近隣店舗の利用を促す想定とします。 ・また、執務室周辺には協議などに使用するフリースペースを設けており、自席のほか、そうした場所での飲食も可能とします。 ・職員駐車場については、No.26,27のとおりです。

29	その他 事業全般	<p>3/18の市民会館での説明会に出席しました。御説明は根拠を持って端的に行われ大変解かり易いものでした。計画開始当初には予想できなかった物価高などの諸問題にも真摯に取り組み、規模や構造などの見直しに決断を持って取り組まれた事が良く伝わりました。当日私も御意見を申し上げましたが、この素案にて肅々と前に向かって進めて頂きたく存じます。</p> <p>新庁舎建設反対の意見には多に違和感を覚えました。その内容の殆どが結果論であり、その時点で解かっただけの無い諸問題に対して「市の読みが甘い。」「信用できない。」と発言されるのはとても後ろ向きで残念な印象でした。現時点で大田市として建設の目処が立っている今だからこそ、立ち止まることなく前進して頂きたいです。</p> <p>なにより、この大田市で暮らし、夢を見ようと思ってくれる子ども達や若者世代のためにも、この新庁舎がそのシンボルとして存在してくれる事を願います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計書（素案）では、将来の人口規模、職員数に見合った必要最小限の規模と設備とし、詳細な概算事業費により、財源の見通しが立ちました。将来の世代にも負担の少ない手法となるよう、早期の新庁舎整備に引き続き取り組んでまいります。 ・説明会によりご理解を深めていただけたこと、大変ありがたく存じます。
30	その他 事業全般	<p>私は現在退職後フリーで、ある程度時間がありますのでこの新市庁舎問題にも関心を持って経緯を拝見していました。先日の説明会にも参加しましたし、パブリックコメントという市民が意見具申する仕組みが有ることも初めて知りました。LINEにも登録し、大田市からのアナウンスがかなり受け取りやすくなったなど感じています。</p> <p>私の感覚で恐縮ですが、この市庁舎問題は、まだまだ市民に広く深く、現実的な、切実な問題として浸透していないのではないかと感じています。さすがに大田町駅前地域の方は自分事になっているかもしれませんが、大田市は広いですし、バス、JRの利用者は限られています。私もバルが無くなってからは、長久のお店には行っても駅前には殆ど行っていません。</p> <p>今後100年使うだろう市役所を作る大きな計画で、大きな財源を必要とする事業です。市報や新聞記事は拝見していますし、確かに手順は踏んでおられるとは思いますが、話が話ですので、まだまだ市民への積極的な広報活動、意見募集などをして市民を巻き込んで進めて頂きたいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のとおり、市民のみなさまに事業内容が伝わっていない部分はあるものと考えています。 ・市の各種媒体を用いて、事業の進捗などについて、より積極的にお知らせしてまいります。
31	その他 事業全般	<p>説明会に参加しました。説明会の質疑やパブリックコメントで寄せられた意見を参考にして、計画に反映させて行きたいとお話がありました。</p> <p>意見を寄せた方は真剣ですし、心から大田市の行く末を案じておられると思います。説明会の参加者数の評価も有ると思いますが、人々が、関心が無いがゆえに参加しないとは限りません。私の周囲にもこの問題自体に嫌悪感を持っている人もいます。</p> <p>ぜひとも形ばかりの通過儀式では無く、一つ一つの質問、提言に寄り添って検討して頂きますようお願い致します。</p> <p>「このスケジュールでやらないとさなる工事費の高騰につながる」と市民の不安を煽るのでは無く、熟議を重ね、数年の計画延長は有ったとしても、市民の多くが納得して応援することが出来る形の計画にしたいです。</p> <p>5年後の行政のDX化の流れや、ゼネコンの企業努力、技術開発による建築コストの縮小、世界情勢、大田市の人口減少の急変、どなたが市長をされているかを含め、だれも今は見えないのですから…。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎整備については、平成28（2016）年度の総合計画後期計画策定時点からスタートし、現庁舎の耐震化と新庁舎整備を比較のうえ、都度議会や市民のみなさまと協議を重ねながら、進めてきたものです。 ・この度の基本設計書（素案）など、大きな節目では、常に複数の手法を提示しつつ、最善と考えられる提案をし、ご説明しております。 ・これまでの主な経過については、こちらのリンク【主な経過ヘリンク】にまとめていますので、ぜひご参考ください。
32	その他 事業全般	<p>新たなに建てる本庁舎は提示計画書より小さめに再設計し、現実には分庁舎式で進めては如何でしょうか。それぞれの分庁舎の耐用年数が経過した時点で、統合するやり方で10年が過ぎれば、人口減少が進み、小さめに作った本庁舎が適正規模になっているのでは無いかと思えます。</p> <p>その統合は20年先になるかもしれないし、新たな分庁舎担当課はこれからも出て来るのではないのでしょうか？無駄なお金を使わないという理念が有れば、県も国も民間も協力してくれるのではないですか？もう一度、そこから再設計して頂きたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計書（素案）では、令和32（2050）年ごろの人口規模に見合った庁舎面積とし、それまでの間、職員を分散配置することを前提としており、ご提案のとおりの方針となっています。 ・これ以上の分散配置は、窓口を始めとした市民サービスの大幅な効率低下が懸念され、庁内の連携にも支障が出ることから、困難と考えています。
33	その他 事業全般	<p>関連担当課の皆様におかれましては、大変なご苦勞でここまでの計画を練り上げられ、敬意と感謝をお伝え致します。</p> <p>先日の説明会に参加しました。立派な資料でしたが、会場からは計画実施の判断や財源についての深刻な意見があり驚きました。質問した方々の意見にもかなりの説得力が有りました。</p> <p>ここは一度、事業を進めなくてはならない立場の大田市担当課の視点では無く、高所大所に立って今一度この新庁舎計画を俯瞰して見て頂くことはできないのでしょうか。</p> <p>大田市担当課の皆さんは、行政マンとして、それぞれの専門職としての矜持を持ち、市民への奉仕の心を持ってこの事業に取り組んでおられる訳ですから、たとえ計画見直しの為に一時的な立ち止まりをして市民の総意を得る努力をしたことで事業費の拡大が有ったとしても、大田市全体の大きな損失になるとは思いません。それは必要な手順を踏んだのだ、大切なお金をそれに使ったのだと市民は納得するのではないのでしょうか。後世によい事例と教訓を残すことになると思います。</p> <p>いろいろな意見に耳を傾け、丁寧に事業を推進されることが、きれいな市庁舎を急いで作るということよりも、より大切なことなのではないかと思ひご検討をお願い致します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎整備については、平成28（2016）年度の総合計画後期計画策定時点からスタートし、現庁舎の耐震化と新庁舎整備を比較のうえ、都度議会や市民のみなさまと協議を重ねながら、進めてきたものです。 ・これまでの主な経過については、こちらのリンク【主な経過ヘリンク】にまとめていますので、ぜひご参考ください。 ・他自治体の事例では、基本構想の策定から基本設計の完了まで2~3年で行うことが一般的ですが、大田市は4年をかけ、説明会などの意見聴取の機会を毎年設けながらこれまで進めており、より時間をかけた丁寧な事業の推進を心がけています。
34	その他 事業全般	<p>先般の大田市長選は僅差で現職が当選されましたが、投票率が高ければ結果はどうなっていたかはわかりません。なぜあそこまで接戦になったのでしょうか？市長選の大きな論点が「市庁舎問題だったから」ということが有ると思います。</p> <p>市庁舎問題は市民にもたいへんわかりやすいテーマでした。投票した方の約半数は現行計画への懸念、心配をお持ちだと言う結果だったと思います。</p> <p>この新市庁舎建設問題は、市民がとっつきやすい、わかりやすいテーマですので、市民に市政に関心を持ってもらう丁度よい機会として、もっともっと有効活用されては如何でしょうか？</p> <p>先日の各地の説明会開催は良かったと思いますが、参加者が少なく残念でした。あのような機会をネットや出前講座も含めていろいろなやり方で実施されるとよいと思います。</p> <p>また、中学生、高校生、大学生にも授業の一環で取り組んで貰い、いろいろと意見を出してもらうというのはどうですか？</p> <p>これから自分たちが成長して暮らす町の市役所の建設計画に参画できるのです。若い世代はネットを駆使して、また機動力よく調査し、大人が思いもよらぬ提案をしてくれるかもしれません。事業費の大幅削減につながるヒントも出て来るかもしれませんよ。</p> <p>何より、若い世代に「わがごと」として考え、皆で勉強し、協力して発表して貰うことの意義、教育効果は計り知れないと思います。その中から何かが形になれば、まさに彼ら彼女らの地元への想いの醸成にも必ずや繋がると思っています。</p> <p>目先の出費やスケジュール変更もあるかもしれませんが、こういうお金の使い方は、いい使い方、夢のある使い方じゃないかなと思います。</p> <p>きっと、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんの間にも爆上がりですよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご提案のとおり、若い世代の事業参画は、メリットの多い取り組みと考えています。 ・市では、新庁舎整備の決定以前から、整備方針や機能について、ワークショップやアンケートなどで、若い世代の意見を継続的にうかがいながら具体化に取り組んでおり、今回の基本設計書（素案）が、これまでの意見を反映したものとなっています。 ・令和元（2019）年度には、「ハコモノ適正化ワークショップ」と題して、島根大学の学生を中心に、「大田市公共施設適正化計画」に基づき市役所周辺の公共施設のあり方、活用のアイデアを話し合い、将来の市役所周辺の「まちづくりプラン」を作るワークショップを開催しました。【結果概要リンク】 ・このワークショップでは、多くのグループから大田市駅前への庁舎移転が提案され、令和3（2021）年度に開催した「大田市役所本庁舎の整備を考える会」【事業リンク】での整備案の一つに反映し、現在の基本設計書（素案）までつながっています。また、この「考える会」でも、高校生をアンケート対象として意見をうかがっています。 ・令和6（2024）年度には、市内中学生を対象に、庁舎の市民利用機能に関するアンケートを行っています。【アンケートリンク】学習利用を始め、このアンケート時の意見を参考に、市民利用機能をまとめています。

35	その他 事業全般	<p>以前話題になった新庁舎建設の為の職員の給与カットは今も続いているのですか？ もしもそうならぜひ中止して、今までの分も返還してあげてください。 この物価高、社会保険料、公共料金高騰で日々の生活にも窮する中、こういう施策がまかり通るのは不条理です。 表向きは職員納得の上とか、モチベーション低下や業務への支障は無いと言うかもしれませんが、人の気持ちはそう単純なものではありません。 私は、市役所庁舎のことよりも、職員さんのメンタル、モチベーション低下、業務への悪影響、ひいては市民サービスへの悪影響を心配します。これから必ず出て来ると思います。 改修でも新築でもお金はかかる訳ですので、きちんと精査積算計上し、無理のない計画を立ててその分は正しく捻出して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の給与カットは令和7年度から令和11年度まで実施する予定です。 ・今後の状況にもよりますが、物価の上昇率が落ち着き、事業費の大幅な減額が見込まれる場合や、引き続き実施する財源確保の取り組みにより想定以上の収入の増などがある場合は、早期に給与カットを終えることも想定しています。 ・職員の給与カットは、職員の生活に大きな影響を与えるものと認識しており、これに伴い職員のモチベーションの低下など、一定の影響が生じる懸念はありますが、これらの影響が市民サービスに及ぶことのないよう、引き続き職場環境の整備や人員の確保など、市民サービスを安定的に提供するための体制強化に取り組んでまいります。 																																																																																																																								
36	その他 現庁舎関係	<p>今の庁舎は、使わずに決まるまでそのままのものを聞きました。予算が足りないところではありますが、地域の環境を悪化させないように、よろしくをお願いします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現庁舎の閉鎖後、解体を行うまでは、危険性の無いように適切に管理します。 																																																																																																																								
37	その他 現庁舎関係	<p>今日の説明会、とても分かりやすく素晴らしかったです。 反対派の方の意見を聞けば聞くほど、大田市の未来を考えないと感じました。無理かも知れませんが例えば、改修工事をして、新庁舎と同じだけの耐震性を持たずとするなら、ランニングコストを加えず、工事費だけでいくらかかりますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年度の耐震補強の基本設計では、耐震性能の重要度係数は1.25（構造体Ⅱ類）としています。 ・新庁舎の重要度係数は1.5（構造体Ⅰ類）であり、より高い基準となります。 ・現庁舎の耐震補強を、新庁舎並みの基準とするためには、正確な構造計算が必要であり、設計を行わずに工事費を算出することは困難ですが、現在の積算額より大幅な上昇が見込まれます。 ・説明会によりご理解を深めていただけたこと、大変ありがたく存じます。 																																																																																																																								
38	その他 現庁舎関係	<p>新庁舎は住民の支持が70パーセント以上ないと、県庁本庁舎耐震工事9億2000万、今後30年以上供用、震度7以上大きな損傷生じず。とりあえず市役所の耐震工事をして、時期世代に判断をゆだねる。30年後現市役所の前の駐車場に3階建てを建てる。現庁舎は壊し、駐車場にする、コンクリートの残材は碎石にして埋める、震度6、7で市役所は壊れると言いますが、ライフラインはズタズタ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建物ごとに異なる事情があり、県庁舎についても、市の現庁舎との単純な比較はできません。県庁舎と市庁舎の違いは下記のとおりです。 ①大幅な物価上昇があります。県庁舎の耐震補強工事が行われた平成16（2004）年および平成24（2012）年と現在では、例えば国の定める公共工事設計労務単価（全国・全職種）で、2倍程度の差があります。 ②県庁本庁舎は国の登録有形文化財であり、長期使用を前提に管理を行っておられます。 ③建物の形状から、採用できる耐震補強の工法が異なります。 ・現庁舎の耐震補強工事は、多額の費用がかかる一方で使用できる期間は短いため、行いません。物価上昇が続く現状では、判断の先送りは後の世代により多くの負担をかける可能性が高く、物価上昇の影響を少しでも抑えるよう、早期の新庁舎整備が必要と判断しています。 																																																																																																																								
39	その他 現庁舎関係	<p>A3判チラシの内容について ①現庁舎が使える年数は改修してもわずか12年とあるが、市の調査は耐震診断の結果しかない。12年と決めつけている科学的根拠を明確に示して下さい。 ②チラシの比較イメージ図で 新庁舎整備の合計費用が91.3億円とあるが、84.9億円+26.5億円で合計111.4億円ではありませんか？ ③耐震改修費用が総額60億円とあるがこの詳細な計算根拠を明確に示して下さい。 以上の3点につきよろしくお願いします。</p>	<p>① 耐用年数が60年を超えないとする根拠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市では、日本建築学会が示し、全国の多くの自治体で採用されている鉄筋コンクリート造建築物の一般的な耐用年数を基に、標準的な耐用年数を60年としています。 ・平成21年度に実施した耐震診断の結果から、新たに同じ調査を行わなくても既に判断材料は得られています。 ・特に、コンクリートの中性化は環境条件（温湿度など）が大きく変化しない限り不可逆的かつ一定の速度で進行することが一般的な理論（\sqrt{t}則）として確立されています。 ・このため、過去の測定値から現在の中性化深さを推定することが可能であり、地下や屋上部分では既に鉄筋に達していると十分に予測できます。 ・実際に、地下・屋上・外壁タイルの複数箇所では鉄筋の露出や爆裂が確認されており、推定を裏付けています。 ・現庁舎ではこれまで大規模改修を行っておらず、平成30（2018）年の地震被害も加わり、鉄筋爆裂のほか、雨漏り、ひび割れ、塩害による錆など、建物の劣化が進行していることを現地を確認しています。 ・これらの状況を踏まえ、市内公共施設の築年数・建築材・工法・劣化状況を熟知した一級建築士の職員が、現庁舎が標準的な耐用年数である60年を超えて使用できる状態にはないと判断しています。 <p>② 新庁舎と現庁舎の比較について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎、現庁舎ともに「実質負担額」で比較しているため、チラシに記載している 91.3億円 が、適切な比較する額となります。 <p>③ 費用算定の根拠について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年6月の議会特別委員会資料で提示した数値を基礎とし物価上昇分を反映しています ・また、当該資料では項目名のみ記載となっていた設計費などについても、今回の算定では追加計上しています。【右図のとおり】 <p>現庁舎の耐震化・大規模改修にかかる今後の物価上昇を踏まえた試算（R8.3.2時点試算）</p> <table border="1" data-bbox="2255 798 2893 1627"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R7.6特委資料</th> <th>物価上昇計算後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①耐震化工事（税抜） ★は緊防債対象とした部分</td> <td>2,947</td> <td>3,344</td> </tr> <tr> <td>★耐震工事</td> <td>603</td> <td>684</td> </tr> <tr> <td>部材搬入口工事</td> <td>300</td> <td>340</td> </tr> <tr> <td>★耐震天井工事</td> <td>101</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>書庫工事</td> <td>98</td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>仮設庁舎工事</td> <td>640坪（1フロア並）</td> <td>897</td> </tr> <tr> <td>外壁改修</td> <td>200</td> <td>227</td> </tr> <tr> <td>防水工事</td> <td>115</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>底パネル工事</td> <td>取替え更新</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>照明LED化工事</td> <td>天井張り替えにあわせ</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>★耐震天井工事</td> <td>1～3階</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>★自家発電工事</td> <td>450KVA（72h対応タンク共）</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>②大規模改修工事（税抜）</td> <td>780</td> <td>885</td> </tr> <tr> <td>トイレの改修工事（洋式化）</td> <td>60</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>換気設備の改修工事</td> <td>30</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>樋の取替工事</td> <td>30</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>消防設備更新工事（一式）</td> <td>270</td> <td>306</td> </tr> <tr> <td>キュービクルの更新</td> <td>300</td> <td>340</td> </tr> <tr> <td>エレベーターの更新</td> <td>70</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>自動ドアの更新</td> <td>10</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>監視カメラの更新</td> <td>10</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>③空調設備更新</td> <td>将来更新分、税込</td> <td>466</td> </tr> <tr> <td>④ランニングコスト</td> <td>外部システムによる自動計算、税込</td> <td>644</td> </tr> <tr> <td>⑤その他の想定経費（税抜）</td> <td>-</td> <td>1,070</td> </tr> <tr> <td>用地整備費</td> <td>仮設庁舎、駐車場の敷地整備、原状復旧費</td> <td>340</td> </tr> <tr> <td>設計・監理費</td> <td>基本設計、実施設計費</td> <td>435</td> </tr> <tr> <td>通信整備費</td> <td>専用回線工事</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>移転費</td> <td>什器等の移動費（4フロア*往復分計10回）</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>仮設庁舎地盤調査費、来庁者誘導員、仮設庁舎監視カメラ</td> <td>131</td> </tr> <tr> <td>⑥現庁舎解体費（今回未計上）</td> <td>将来的な解体時</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="3">※R8基本設計、R9実施設計、R10-11工事で想定</td> </tr> <tr> <td colspan="3">※R7→R10で毎年4.3%の建設物価上昇を見込み計算（13.46%の物価上昇）</td> </tr> <tr> <td colspan="3">※空調設備はR15年度更新（H25更新から20年）と仮定し計算（40.05%の物価上昇）</td> </tr> <tr> <td colspan="3">※耐震工事+自家発電工事部分（1,381）は緊急防災・減災事業債を適用（交付税措置966）</td> </tr> <tr> <td>(①+②+⑤) 工事部分にかかるコスト（税込）</td> <td>4,100</td> <td>5,829</td> </tr> <tr> <td>(③+④) 維持管理部分（12年間）にかかるコスト</td> <td>1,110</td> <td>1,134</td> </tr> <tr> <td>(①+②+③+④+⑤) 12年使用時の合計コスト</td> <td>5,210</td> <td>6,963</td> </tr> <tr> <td>緊急防災・減災事業債の国交付税措置額</td> <td></td> <td>966</td> </tr> <tr> <td>実質負担額</td> <td></td> <td>5,997</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R7.6特委資料	物価上昇計算後	①耐震化工事（税抜） ★は緊防債対象とした部分	2,947	3,344	★耐震工事	603	684	部材搬入口工事	300	340	★耐震天井工事	101	115	書庫工事	98	111	仮設庁舎工事	640坪（1フロア並）	897	外壁改修	200	227	防水工事	115	130	底パネル工事	取替え更新	100	照明LED化工事	天井張り替えにあわせ	130	★耐震天井工事	1～3階	103	★自家発電工事	450KVA（72h対応タンク共）	300	②大規模改修工事（税抜）	780	885	トイレの改修工事（洋式化）	60	68	換気設備の改修工事	30	34	樋の取替工事	30	34	消防設備更新工事（一式）	270	306	キュービクルの更新	300	340	エレベーターの更新	70	79	自動ドアの更新	10	11	監視カメラの更新	10	11	③空調設備更新	将来更新分、税込	466	④ランニングコスト	外部システムによる自動計算、税込	644	⑤その他の想定経費（税抜）	-	1,070	用地整備費	仮設庁舎、駐車場の敷地整備、原状復旧費	340	設計・監理費	基本設計、実施設計費	435	通信整備費	専用回線工事	45	移転費	什器等の移動費（4フロア*往復分計10回）	118	その他	仮設庁舎地盤調査費、来庁者誘導員、仮設庁舎監視カメラ	131	⑥現庁舎解体費（今回未計上）	将来的な解体時	-	※R8基本設計、R9実施設計、R10-11工事で想定			※R7→R10で毎年4.3%の建設物価上昇を見込み計算（13.46%の物価上昇）			※空調設備はR15年度更新（H25更新から20年）と仮定し計算（40.05%の物価上昇）			※耐震工事+自家発電工事部分（1,381）は緊急防災・減災事業債を適用（交付税措置966）			(①+②+⑤) 工事部分にかかるコスト（税込）	4,100	5,829	(③+④) 維持管理部分（12年間）にかかるコスト	1,110	1,134	(①+②+③+④+⑤) 12年使用時の合計コスト	5,210	6,963	緊急防災・減災事業債の国交付税措置額		966	実質負担額		5,997
項目	R7.6特委資料	物価上昇計算後																																																																																																																									
①耐震化工事（税抜） ★は緊防債対象とした部分	2,947	3,344																																																																																																																									
★耐震工事	603	684																																																																																																																									
部材搬入口工事	300	340																																																																																																																									
★耐震天井工事	101	115																																																																																																																									
書庫工事	98	111																																																																																																																									
仮設庁舎工事	640坪（1フロア並）	897																																																																																																																									
外壁改修	200	227																																																																																																																									
防水工事	115	130																																																																																																																									
底パネル工事	取替え更新	100																																																																																																																									
照明LED化工事	天井張り替えにあわせ	130																																																																																																																									
★耐震天井工事	1～3階	103																																																																																																																									
★自家発電工事	450KVA（72h対応タンク共）	300																																																																																																																									
②大規模改修工事（税抜）	780	885																																																																																																																									
トイレの改修工事（洋式化）	60	68																																																																																																																									
換気設備の改修工事	30	34																																																																																																																									
樋の取替工事	30	34																																																																																																																									
消防設備更新工事（一式）	270	306																																																																																																																									
キュービクルの更新	300	340																																																																																																																									
エレベーターの更新	70	79																																																																																																																									
自動ドアの更新	10	11																																																																																																																									
監視カメラの更新	10	11																																																																																																																									
③空調設備更新	将来更新分、税込	466																																																																																																																									
④ランニングコスト	外部システムによる自動計算、税込	644																																																																																																																									
⑤その他の想定経費（税抜）	-	1,070																																																																																																																									
用地整備費	仮設庁舎、駐車場の敷地整備、原状復旧費	340																																																																																																																									
設計・監理費	基本設計、実施設計費	435																																																																																																																									
通信整備費	専用回線工事	45																																																																																																																									
移転費	什器等の移動費（4フロア*往復分計10回）	118																																																																																																																									
その他	仮設庁舎地盤調査費、来庁者誘導員、仮設庁舎監視カメラ	131																																																																																																																									
⑥現庁舎解体費（今回未計上）	将来的な解体時	-																																																																																																																									
※R8基本設計、R9実施設計、R10-11工事で想定																																																																																																																											
※R7→R10で毎年4.3%の建設物価上昇を見込み計算（13.46%の物価上昇）																																																																																																																											
※空調設備はR15年度更新（H25更新から20年）と仮定し計算（40.05%の物価上昇）																																																																																																																											
※耐震工事+自家発電工事部分（1,381）は緊急防災・減災事業債を適用（交付税措置966）																																																																																																																											
(①+②+⑤) 工事部分にかかるコスト（税込）	4,100	5,829																																																																																																																									
(③+④) 維持管理部分（12年間）にかかるコスト	1,110	1,134																																																																																																																									
(①+②+③+④+⑤) 12年使用時の合計コスト	5,210	6,963																																																																																																																									
緊急防災・減災事業債の国交付税措置額		966																																																																																																																									
実質負担額		5,997																																																																																																																									
40	その他	<p>栄町高禪寺線の供用開始時期は、新庁舎使用開始に間に合わせるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当該道路は県道として、県が整備を進めています。 ・新庁舎周辺である、大田市駅周辺から大田商工会議所付近までの交差点の工区は、令和10年代後半の供用開始を目標として事業が行われています。 ・したがって、新庁舎の供用開始とは異なるスケジュールで事業を進めておられますが、市としては、市街地環状ルートの一部に位置付けている重要な路線であることから、早期供用に向け、引き続き県への要望を行ってまいります。 																																																																																																																								